

平成28年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
1 上位層への刺激とともに中間層の底上げを図るため、教員間の学び合いを進めるとともにICT機器の活用や反転学習、アクティブ・ラーニングなどにより生徒が主体的・協働的に学ぶ授業づくりを目指し論理的思考力及び発言力の育成に努める。	① アクティブ・ラーニングやディスカッションを授業の中に導入するなど、授業の工夫を図っている。	教務課 各教科	アクティブ・ラーニングやディスカッションが生徒の学習にどのように効果があるかを検証する必要がある。	【満足度指標】(生徒) アクティブ・ラーニングやディスカッションにより、生徒が授業に主体的に取り組むようになり、学習効果が高まった。	アクティブ・ラーニングやディスカッションにより学習効果が高まると感じている生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 授業の中で生徒が自分の考えを述べる場面、論理的思考力を育成する場面、教師と生徒とのやりとりの場面を設定している。	教務課 各教科	授業における言語活動の場数が少なく、生徒の思考力、表現力の向上に結びついていない。	【努力指標】(教員) 各授業で生徒の発表の場面や教師とのやりとりの場数を多く設定し、生徒の言語活動の活性化を図る。	日々の授業において、考える必要のある質問をし、生徒が発表(発言)する場面を A 多く設定している B 時々設定している C あまり設定しない D 全く設定しない	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 家庭学習と授業内容の連動を図り、学習習慣の確立と学習内容の質の向上をめざす。	教務課 各教科	昨年度は1年生は38.7%(D評価)、2年生は65.9%(C評価)であった。いずれの学年も朝学習と関連して小テストを行うなどすることにより家庭学習の充実を図る必要がある。	【成果指標】(生徒) 質および量ともに充実した家庭学習の習慣が確立されている。	1,2年生で平日の平均家庭学習時間が120分以上である生徒が、 A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 朝学習の充実により、学びにむかう主体性を身につけ、学びの質を高める。	各学年	朝学習としての10分間は定着しており、集中して取り組む姿勢、内容の理解と定着、発展的学習へのつながりを意識して取り組む必要がある。	【満足度指標】(生徒) 生徒自身が積極的に朝学習に取り組み、学力や教養が身についたことを実感している。	朝学習で学力や教養が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Dの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。 評価内容を変更する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考	
2 個別面談や学習活動を通したきめ細かな指導により、生徒一人ひとりの可能性を引き出し、早期に高い進路目標を持たせ、進路実現に向けての意欲と主体性を育む。	① クラス全体の指導やきめ細かい個人面談などを通し、生徒の進路意識を高め、設定した進路目標を実現するために自ら能動的に学習し、学力を高める努力をするような意識づけを行う。	進路指導課 学年 教科	生徒の進路に対する意識は向上し、学力も増進してきているが、最後まで金沢大学以上を目標とする割合と、合格につながる学力に到達している生徒の割合が充分とはいえないため、確固たる進路志望の確立と学力の向上を実現していきたい。	【満足度指標】(生徒) 進路学習や面談などの進路指導を通して、5教科に対する学習意欲が高まり、学力が向上する。	(1・2年)9月の進路志望調査で、国公立大学を目標とする生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 60%以上 (3年)9月の進路志望調査で、金沢大学以上を目標とする生徒が A 80人以上 B 60人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	9月の進路志望調査の結果で判断する	
				【成果指標】(生徒) 基礎学力と応用力を身につける。	1,2年生の学力試験で各教科の全国偏差値が A 平均偏差値50以上 B 平均偏差値48以上 C 平均偏差値45以上 D 平均偏差値45未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1,2年 11月総合学力テストの結果で判断する。	
	② 進路指導課から各学年、教科に方針を発信することにより、教員全体の相互理解を深め、生徒の進路志望を実現するための学力向上の取組を組織的に行う。	進路指導課 学年 教科	1月実施の校外模試において過去2年間に比べ、平均点偏差値が高くなるとともに上位層も増えた。	昨年度、国公立合格者数と難関私立大学合格者数が、どちらも目標値に達することができなかった。センター試験では合格圏にあった生徒でも、個別学力検査において十分な得点をあげられずに合格することが出来なかった生徒も見られたため、記述力を高めるためのさらなる取組が必要である。	【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学を目標とした生徒の育成と、それに見合った学力をつける。	1,2年生の英数国の学力試験全国偏差値54以上の生徒が A 55人以上 B 45人以上 C 40人以上 D 40人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	1,2年 11月総合学力テストの結果で判断する。
					【成果指標】(生徒) 国公立大学、難関私立大学への合格者を増やす。	金沢大学以上の国公立大学合格者数が A 15人以上 B 10人以上 C 5人以上 D 5人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する
					国公立大学合格者数が A 70人以上 B 65人以上 C 55人以上 D 50人以上	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する	
					難関私立大学合格者数が A 20人以上 B 15人以上 C 10人以上 D 10人未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する	

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
3 部活動や生徒会活動の活性化とともに地域行事への積極的参加に努め、チャレンジ精神の涵養を図り、明るく活力ある学校づくりを推進する。	① 保護者に「朝の挨拶運動」を始めとしたPTA活動等に積極的に参加してもらい、教育活動をバックアップしてもらおう。	総務課	前期の「PTA総会」では、2年の講演会を工夫し、昨年より参加者数が増加したが、1年・3年の参加者数は減少した。後期の「文化祭」、「学校公開」等では広報活動に努めた結果、昨年度よりやや参加者が増えた。	【成果指標】(保護者) 多くの保護者が学校行事等に関心を持ち、積極的に参加している。	学校行事やPTA活動で保護者が来校した回数の平均が A 5回以上 B 4回以上 C 3回以上 D 2回以下	A+Bが50%未満の場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 本校の教育活動、生徒の活動の成果をホームページ上に掲載し、広く情報を発信する。	総務課	データ量が増え、最新の情報に更新されていないページが見受けられる。各課・学年に該当ページを周知し、更新手続きを積極的にしてもらおうことで新しい情報の提供に努めたい。	【成果指標】(教員) 各課、学年等からの最新情報が集約され、速やかにホームページ上に掲載される。	ホームページ上の更新回数が A 15回以上 B 12回以上 C 10回以上 D 8回以下	C、Dの場合対策を検討	年度末に評価する
	③ 部活動の加入を促し、学校全体の活性化を図る。生徒のチャレンジ精神と部活動の実力向上を目指す。	生徒課	昨年度、4月当初の1、2年生の部活動加入率は94%であった。また、10月上旬の調査では、多くの生徒が活発に課外活動に参加しているといえる。	【成果指標】(生徒) 多くの生徒が部活動に加入し、活発に活動している。	1,2年生の部活動の加入率が A 90%以上 B 85%以上 C 83%以上 D 83%未満	Dの場合は改善策を検討	12月に評価する。
	④ 明倫祭の外部公開を継続し、校内開催と校外開催についての内容を検討し、本校の外部に対する外部に対する情報発信力を高める。	生徒課	昨年度、1日目は日曜日開催ということもあり、多くの入場者を見込んでいたが、天候に恵まれず、思ったよりも数値は伸びなかった。本年度の開催は土曜日であることから、保護者地域に対する働きかけを生徒が活発に行い1日目の入場者数の回復を狙う。	【成果指標】(保護者) 地域への広報活動と、内容の充実により、2日間のの来場者数が増加した。	1日目の来場者数が A 900名以上 B 700名以上 C 500名以上 D 400名未満	Cの場合は改善策を検討	9月に評価する。
	⑤ 図書委員会による本の読み聞かせや本の紹介カードの作成・展示、公立図書館からの本の借り受けなど地域と連携した活動を行うことで生徒のチャレンジ精神の涵養を図る。	図書課	地域の保育園児や放課後子ども教室の児童を対象とした「本の読み聞かせ」、市立図書館での本の紹介カードの展示等、地域と連携した活動は評価も高く、生徒の自信とやる気につながっている。	【成果指標】(生徒) 地域と連携した図書委員会活動において、生徒が積極的に活動し情報を発信した。	地域と連携した図書委員会活動の回数が A 年間10回以上 B 年間8～9回 C 年間6～7回 D 年間6回未満	Dの場合は、改善策を検討。	年度末に評価する。

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	達成度判断基準	判定基準	備 考
4 節度ある生活習慣の確立に努め、自ら挨拶し、読書に親しみ、ボランティア活動等にも積極的に参加する豊かな人材の育成を図る。	① 登校指導や生活指導などを通して、挨拶がしっかりできる人間の育成を図る。	生徒課 各学年	全体として、挨拶を自分から進んでしているとした生徒は全学年を通じて70%を割っている。 おとなしく、控えめな生徒が多いことら『すすんで』『大きな声』という点で数字を落としている可能性がある。 職員からの声掛けや、その場の一声が必要である。	【努力指標】(生徒) 校内で出会った人に対して、積極的に大きな声で挨拶をする生徒が増えている。	生徒同士や教職員、外部からの来客に対し、挨拶を自分からすすんでしっかりとできた生徒が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	Cの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	② 登校指導や生活指導などを通して、自ら身なりを正すことを通じて、規範意識を育成する。	生徒課 各学年	多くの生徒は、制服を正しく着こなしてはいるが、意図的に制服を正しく着用しない生徒など、規範意識が薄いところがみられる。	【努力指標】(生徒) 毎日、自ら身なりを整える生徒が増えている。	制服を意識的に正しく整えている。 A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	B以下の場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	③ 交通安全教室や街頭指導を通して、自転車の安全運転の励行を図る。	生徒課 各学年	自転車事故の件数が一昨年15件、昨年8件と減少している。自転車の左側通行を定めた改正道路交通法の周知を図り、ルールを遵守する意識を徹底していく必要がある。	【成果指標】(生徒) 自転車運転のルールとマナーの必要性を認識し、交通ルールを遵守する生徒が増えている。	交通ルール(自転車の二人乗りや携帯電話を操作しながら等の運転をしない)を遵守している生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	④ 学校内外のボランティア活動への自発的な参加を促すとともに、ボランティアに参加したことの達成感や地域貢献への意識を高める。	生徒課 各学年	調査ではボランティア活動に自発的に参加した生徒は17.1%であった。昨年度は14%弱であったことを考えると若干の上昇である。しかし、ボランティア実績と照らすと、自発的参加者は40%以上になるはずであるが、生徒のボランティア参加したという意識が薄いようである。	【成果指標】(生徒) 学校全体や部として取り組んだボランティア活動に、自発的に参加する生徒が増えている。	ボランティア活動に、 A 自発的に複数回参加した B 自発的に参加した C 参加した D 参加しなかった	A+Bが50%未満の場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑤ 生徒の良好な人間関係作りを支援する。	相談室 各学年	生徒は全体的に落ち着いた生活をしているが、人とかかわることを苦手とする生徒が増えており、良好な人間関係を築くための手立てを必要としている。	【成果指標】(生徒) 生徒がクラスや部活動に居場所を見出し、学校生活が楽しいと感じる。	学校生活が楽しいと感じる生徒が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑥ 情報の収集、共有を密に行い、困難を抱えた生徒に対して早期に対応し支援する。	相談室 生徒課 各学年	SNSの普及により生徒同士の人間関係が見えにくくなっていると同時に、直接の人間関係における苦手意識や、学校生活上のさまざまなつまづきから困難を抱える生徒がおり、全職員は個々の生徒の情報を共有し、その変化に対して早期に対応する必要がある。	【努力指標】(教員) 各種調査や担任との情報交換などで、支援を必要としている生徒をしっかりと把握し適切な対処をしている。	生徒の変化に対して A 素早く対処し、解決に至った B 素早く察知し、対応することができた C 素早い対処ができず、解決が遅れた D 発見・対処が遅れた	A+Bが90%未満の場合、改善策を検討	7月、12月の学校評価にて評価する。
	⑦ 各検診の結果で健康管理上、受診・治療が必要と診断された生徒に対し、個人面談を通して自己の健康課題を意識させ医療機関での受診率を高める。	保健環境課	一昨年度は約400名、昨年度は、約370名の生徒が受診と治療が必要と診断されている。保健室では、医療機関への受診を勧めているが、医療機関にかかった生徒の割合は、昨年度が約40%であった。例年約45%に満たない状況が続いている。	【成果指標】(生徒) 医療機関の受診を勧められた生徒が自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合を高める。	各検診の結果から自己の健康管理上、受診・治療の必要性を理解し医療機関を受診した生徒の割合が A 70%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	Dの場合は改善策を検討	年度末に評価する。
	⑧ 図書館報、図書便りによる図書案内や各学年団と連携した朝読書、ピブリオバトル、一斉読書などの読書指導によって、読書に親しむ習慣を身に付けさせる。	図書課	図書選定の際に生徒にリサーチや企画展示を行うなどの工夫をした結果、一人あたりの貸出冊数が5.2冊と改善してきた。今年度も図書委員会活動の充実と学年との連携によって図書館利用をさらに促していく必要がある。	【成果指標】(生徒) 読書に親しむ生徒が増え、図書館利用が増加している。	生徒一人あたりの本校図書館の年平均貸出冊数が A 6.0冊以上 B 5.0冊以上 C 4.0冊以上 D 4.0冊未満	CまたはDの場合は、改善策を検討	年度末に評価する。